

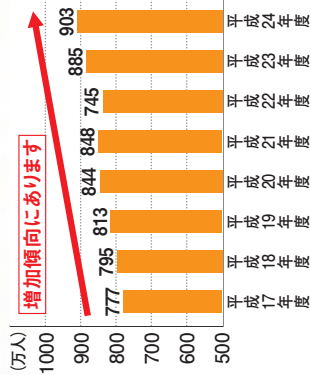
文／宗像幸彦 (p.12)、久ヶ澤和恵 (p.13)、
吉塚さおり (p.14)、柿野明子 (p.15) 写真
真／多田昌弘 (p.13・15) 写真提供／©
moonbase / amanaimages (p.8-9)、まち
むら交流きこう (p.10-11)、キープ協会・
白州郷収場 (p.12)、信州いいいやま観光局
(p.14) イラスト／ひろいまいこ (p.10-11)

グリーン・ツーリズムとは、農山漁村において自然、文化、人々との
交流を楽しむ滞在型の余暇活動です。
近年、国内をはじめ海外からの旅行者のニーズは、その土地なら
ではの体験や地域のひととの交流を楽しむ旅へと変わりつつあり、
農山漁村への関心が高まっています。魅力あふれる農山漁村へ、
みなさんもこの夏、家族や仲間と、出かけてみませんか？

夏の村

ずっと
行きたかった
あの場所へ

グリーン・ツーリズム 施設年間延べ宿泊者数



資料:農林水産省農村
振興局調べ
注:平成22年度は岩手、
宮城、福島県を除く

観光に関連した事業を 実施している農業経営体

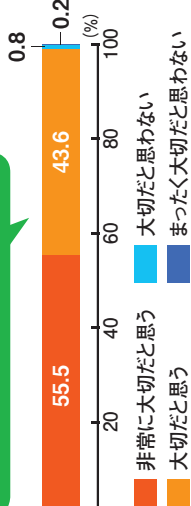
年度	平成17年 (A)	平成22年 (B)	対前比 (B/A) %
農家民宿	1,492	2,006	134%
農家 レストラン	826	1,248	151%
貸農園・ 体験農園など	4,023	5,840	145%
観光農園	7,579	8,768	116%

都市と農村の 交流を総合的に推進

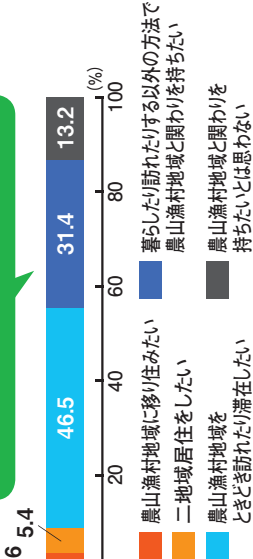
農山漁村においては、人
口の減少・高齢化などに伴
い、地域コミュニティや地
域活力の低下がみられます。
一方、消費者や都市住民の
間では、付加価値の高い食
料生産や観光、教育、福祉
などへのニーズが高まり、
また、地域の絆を重視する
傾向が強まっています。

このため、農林水産省で
は、集落が市町村、NPO
など多様な主体と連携する
集落連合体による、農山漁
村の持つ豊かな自然や「食」
を活用した子ども農山漁村
交流、地域資源の活用やボ
ランティアを取り込んだグ
リーン・ツーリズムや農山
漁村における大学・企業の
研修などの「地域の手づく
り活動」を推進することに
より、グリーン・ツーリズ
ムをはじめ、都市と農村の
共生・対流を総合的に推進
しています。

農山漁村地域は日本に とって大切だと思う？



今後、農山漁村とどのような 関わりを持ちたいと思う？



資料:国土交通省「農山漁村地域に関する都市住民アンケート調査」(平成25(2013)年2月公表)
注:都市住民を対象として実施したインターネット調査(回答総数3,920人)

ココでしか 味わえない 魅力がいっぱい!

グリーン・ツーリズム

朝採れ野菜や果物のほか 手作りの加工品がスラリ!



その日の朝に収穫した野菜や果物など、新鮮な農産物をごろんな価格で購入できる施設です。農家の手作り味噌、漬け物、ジャムなどの加工品から総菜まで豊富な商品が楽しめる店もあります。新鮮さと作り手の農家の顔が見える安心感で人気を得ています。

農家民宿



地元の人とふれあいがながら農家の暮らしを体験! 農家が経営する宿泊施設で、自宅の一部を提供しているところでは、農家の暮らしをそのまま体験できます。農山村の風景に癒されながら、地元の人と語り合ったり、農作業や郷土料理作りなどの体験ができるのも魅力です。

体験施設

農業体験から加工体験まで、その道のプロに教わる!

田植えや稲刈り、野菜の収穫、牧場での乳搾りなどの農業体験ができるのはもちろん、加工体験ができるところも。バターやソーゼージ作り、そば打ちなどのほか、ジャム作りやスイーツ作りができる施設もあり、女性客に人気です。



観光農園

果物狩りにキノコ狩り、野菜の収穫体験も人気上々!

農産物の収穫ができる体験型の農園です。果物が世代を問わず人気ですが、サツマイモやアスパラガス、トマト、さらにキノコの収穫体験ができる農園もあります。



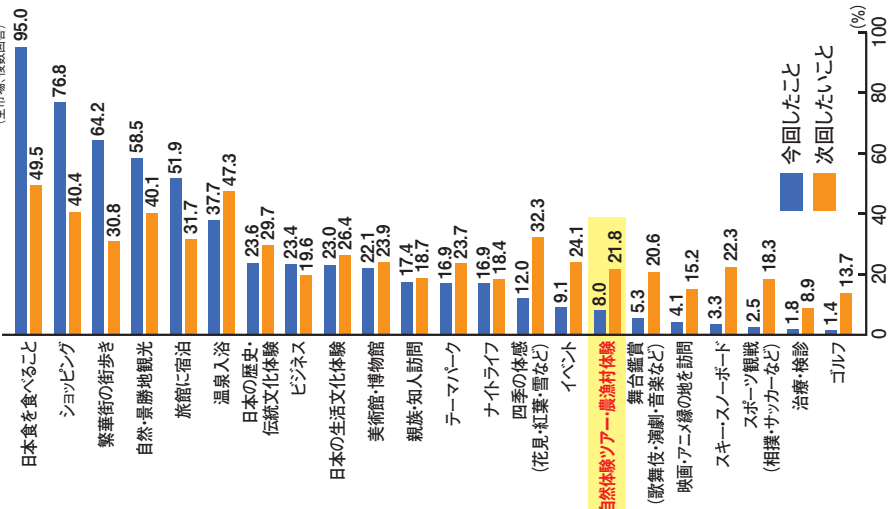
農家レストラン

旬の新鮮な農産物がたっぷり味わえる!



農家が自家生産した野菜や、地域でとれた農林水産物を調理して提供する飲食店のことです。伝統野菜や郷土料理を提供している店も多くあります。また、バイキング形式の店も増え、家族連れに人気を集めています。

訪日旅行者が今回実施した活動と次回実施したい活動

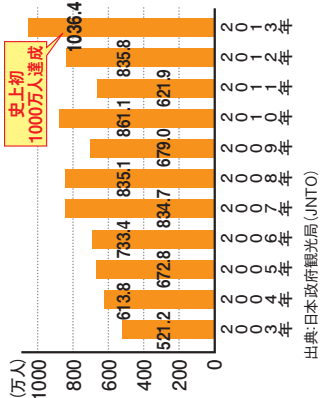


出典: 訪日外国人消費動向調査(2012年)より算出

グリーン・ツーリズム関連サイト

- 一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流機構) <http://www.kouryu.or.jp/>
- オーライ! ニッポン会議 <http://www.kouryu.or.jp/ohrai/>
- 農林漁業体験民宿、農家レストラン、農産物直売所 <http://kouryu.or.jp/gt/inn/index.html>
- ふるさとふれあいプロジェクト <http://f-ouen.jp/>
- 親子で楽しめる「旅いく」～子ども(3～12歳)の「生きる力の芽」を育てる、ホンモノ体験が満載!～ (株)JTBコーポレートセールス <https://kabi-iku.jtbwbt.com/>
- 旅の発見 (株式会社ティ・ゲート) <http://tabihatsu.jp/>
- どなりーな ～お気に入りの田舎を見つけよう～ (とまねる株式会社) <http://tomarina.com/>
- 自然体験・交流の旅「グリーン・エコー」(株式会社農協観光) <http://ntour.jp/tour/shop/index.php>
- じゃらん.net (株式会社リクルートライフスタイル) <http://www.jalan.net/>

外国人旅行者も日本の農山漁村に興味津々!



平成25年、訪日外国人旅行者数は、初めて年間1000万人を達成しました。外国人旅行者の中で、実際に自然体験ツアーや農山漁村体験をした人は8%とまだまだ少ないものの、今後体験してみたいという人はその2.5倍以上いるとの調査結果が出ています。

その他、日本の歴史や伝統文化体験、日本の生活文化体験など、農山漁村で体験できる活動にも関心が集まっています。

「」を改訂。政策の展開方向として、人口減少社会における農山漁村の活性化の必要性が位置づけられ、都市と農山漁村の交流等の推進にあたり、福祉、教育、観光との連携を強化することとしています。

このうち、教育との連携では、農林水産省、文部科学省、総務省が連携し、平成20年から「子ども農山漁村交流プロジェクト」に取り組んでおり、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進しています。

観光との連携では、農林水産省と観光庁との間で平成26年1月に「農観連携の推進協定」を締結。農山漁村の魅力と観光需要を結びつけるため、観光事業者と連携したグリーン・ツーリズムの取り組み、6次産業化による特産品の開発、地域ならではの食や森林を活用した観光の取り組みなどを推進しています。また、政府として「2020年に訪日外国人旅行者数2000万人の高み」を目指していることを踏まえ、海外に向けて我が国の農山漁村の魅力発信、訪日外国人旅行者の農山漁村への誘致などを積極的に図っていくこととしています。